

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- (1) 望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、キャリア教育・職業教育及び教科学習を充実させる。
(2) 生涯学習の意義を明確に伝え、知・徳・体のバランスのとれた力を養う。
(3) 道徳教育を重視し、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- 社会と自らの生き方を関連づけて考え、主体的に自身の進路を拓く姿勢と態度
○ 生涯にわたって主体的に学び続ける「生きる力」の醸成
○ 基本的な生活習慣と規範意識の確立

総合的な探究の時間の学習評価

- 主体的に自身の進路選択を明確にできたか。
○ 「やってみる」という自らの目標に取り組む姿勢が身に付いたか。
○ 基本的な生活習慣と規範意識を身につけることができたか。
以上の内容を、教師による評価「観察・活動記録による評価、制作物(作品)の評価、提出報告書による評価、発表会による評価等」、生徒による評価「自己評価、生徒同士の相互評価等」を行う。

生徒の実態

- 学習意欲が高く資格試験等に積極的な生徒群と、学習意欲があまり高くない生徒群の二極化が見られる。
○ 本校の学習意識調査では、約85%の生徒が「授業を真剣に受けている」と回答しているが、半数以上の生徒が「家庭学習を殆どしない」と回答。
○ 自転車運転マナーに関する苦情があり、交通事故が危惧される。
○ 部活動は、活動が活発化し成績が向上したが、生徒の部活動加入率は約7割である。
○ 進路状況は、例年、就職内定率は100%である。前年度の進学実績としては、64名が4年制大学へ進学した。高専への編入試験には1名、国公立大学には5名が合格した。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- 保護者・スクールカウンセラー・外部機関と連携し、生徒ひとりひとりの教育的ニーズを把握し、生徒に応じた支援を行う。
○ 生徒ひとりひとりの情報を学校全体で共有し、チーム学校として支援にあたる。

目指す生徒の姿

- 生徒の自主性を育み、学力・技術・技能の向上を目指す。
○ 学習意欲の高い生徒を育成する。
○ 基本的な生活習慣の確立を目指し、服装規定や自転車運転マナーを遵守する模範的な生徒を育成する。
○ 特別活動に積極的に参加する生徒を育成することで精神を鍛え、中堅技術者としての心構えを育成する。
○ 何事も、やってみるという探究心を持たせる。
○ 個々の適性等を理解させ、適切な進路選択ができる生徒を育成する。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1 学年
探究課題: 職業の選択と社会貢献及び自己実現について
(1) 知識及び技能
自己の在り方生き方や進路について学習し進路選択に必要な能力や態度を養う。
(2) 思考力、判断力、表現力
職業現場についての意義や目的を把握し自己理解を深め、情報収集・整理分析することで働くことの意義や目的を把握し、勤労観・職業観の基本となる知識を養う。
(3) 学びに向かう力、人間力等
進路選択に向けて主体的に活動する態度を育成する。
3 学年
探究課題: 職業の選択と社会貢献及び自己実現について
(1) 知識及び技能
自己の在り方生き方や進路について考察する学習を通して、将来の進路選択に必要な能力や態度を養う。
(2) 思考力、判断力、表現力
職業現場における実際の知識を身に付け、適性を把握し自己理解を深め、体験することで働くことの意義や目的を理解し、確かな勤労観・職業観を身に付ける。
(3) 学びに向かう力、人間力等
進路選択を通して自分を振り返り、自己実現に向けて粘り強く考える態度を養い、地域社会へ貢献することの意義を気付かせ、学習したことを進路実現に繋げようとする態度を育成する。

学習活動、指導方法等

- 1 学年
本校作成資料「水工skills」を使用して指導し、アナログ(図書館等の活用による書籍等)技術とデジタル(インターネットによる情報検索)技術の併用による探究のプロセス「情報の収集」「整理・分析」「まとめ表現」を身につける。
各自が人物および進路についての課題設定を行い、情報を収集・整理分析し、ワークシート・レポートとして記録する。人物および進路に関する課題を設定し、建築科と土木科の生徒は10~11月に現場見学会を行う。情報技術科は大学見学会、電気科は出前授業を行う。機械科及び工業化学科も探究的な活動を行い、各自でそれぞれ関連する進路探究を行う。体験後はグループごとに整理・分析し、最終的に発表会を実施する。指導は、全教員で担当する。
3 学年
『適切な進路実現を目指す探究活動』
進路希望別に課題を設定し、より具体的に課題を設定させ、班別活動を行う。ハローワークとも連携し、進路ガイダンスなどの企画も取り入れる。また、本校で学んだ事柄を、各科で後輩へ伝えることにより、他者と協働する意欲や態度を深めさせる。さらに課題研究発表会でその成果についてプレゼンする。これらの学習活動は、進路指導に関する活動と各科の専門的な学習活動の組み合わせになるため、主な指導者はその科の職員が行う。
『教科横断的な視点を取り入れた探究活動』
各教科、横断的な視点で探究活動を行う。例えば、その一例として、食育をテーマとし、普通教科で栄養素を扱う。本校6学科の何れかの学科で栄養素について分析し、他の工業科では、食品の輸送計画を立案するといった探究活動を行い、分析結果をグループで話し合わせて発表するといった、主体的・対話的な学びを実践し、生徒の論理的思考を養う。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- 基本的な生活習慣の確立
○ 近隣企業や研究機関との連携(進路探究)
○ キャリア教育の推進
○ パソコン(インターネット)を利用した調べ学習
○ 教科横断的な学習活動
○ 企業見学会、現場見学会、大学見学会
○ 進路講話、交通安全教室、薬物乱用防止講座
○ 地域学校協働活動
○ 地域産業祭・地域企業展示会
○ ゴミ拾い清掃活動
○ 出前授業(企業、専門学校)
○ 地域マイスターの活用
○ 各種技能競技大会
○ 各種コンテスト
○ 就業体験
○ 各市町村との連携
○ 近隣学校との連携(小学校・中学校・高等学校)
○ PTA・同窓会・後援会との連携
○ 全国工業校長協会のイベントへ参加
○ 学年間連携
以上の教育活動ができるよう指導体制を整える。